

囲碁電王戦 趙治勲名誉名人 vs DeepZenGo 対局ルール

■ 対局スケジュール

- ・ 第1局 11月19日(土)
- ・ 第2局 11月20日(日)
- ・ 第3局 11月23日(水 祝)

■ 対局ルール

対局は三番勝負。ただしどちらかが2連勝したとしても3局目を行う。

互先、先番6目半コミ出し。

日本ルール。

対局は日本囲碁規約に準ずるものとする。

■ ニギリ

1局目の対局開始直前にニギリを行い、黒番・白番を決定。

3局目の対局開始直前にニギリ直しを行い、黒番・白番を決定。

■ 対局者の持ち時間

13時対局開始。持ち時間は手合時計計測で2時間。

持ち時間を全て消費した場合は、60秒の秒読み3回までとする。

■ 立会人

日本棋院の棋士1名が立会人を務めることとする。

立会人は、対局全般（対局開始、終了、トラブルの判定、ミスの判定を含む）をコントロールする権限を持つ。

■ コンピュータの対局条件

対局が始まってから対局終了するまで、コンピュータへの人の操作は、原則として打たれた手の指示以外許さないものとする。

トラブルへの対処のみ、立会人の立会いのもとにコンピュータを操作することができる。

■ 時間のカウントに関して

人間側は手合時計を使用し、コンピュータはコンピュータ内の時間を正とする。

（但し、コンピュータ側はコンピュータに手を入力する時間、およびコンピュータの手を盤上に再現する時間は含まない。）

■ コンピュータへの着手入力ミスについて

人為的な入力ミス（コンピュータへの棋士の手の入力）が発覚した場合、速やかに立会人に連絡し、立会いのもと正しい局面の状態まで復旧に努めるものとする。復旧にかかった時間は、消費時間を含めない。復旧した局面から再開するものとする。

（注：トラブル等、立会人の許可の下で、復旧している間の時間は、ストップウォッチ等の計測を以て、補正する。）

■ コンピュータのトラブルに関して

コンピュータにトラブルが生じたことがわかった場合、速やかに立会人を呼び対応する。トラブルのいかんにかかわらず、立ち会いのもと復旧に努めるものとする。

何らかのコンピュータのトラブルがあり、原因がコンピュータソフトに起因しない場合、復旧にかかった時間は、消費時間を含めない。

何らかのコンピュータのトラブルがあり、原因がコンピュータソフトにある場合： 1, 手番において着手が確定できない場合、その持ち時間を消費してコンピュータ開発者側がトラブル処理を行うこととする。なお、秒読みの場合はその限りではない。2, 棋士側の思考時間中にトラブルが見つかった場合、トラブル処理を始めることができる。その場合棋士側の着手の時点からコンピュータの持ち時間が消費される。

棋士またはコンピュータ操作者が自己責任で遅刻した場合、主催者の判断で該当者が不在のまま対局を開始することができる。

棋士が自己責任で遅刻し、そのため着手できない場合は、通常通り考慮時間中の離席とみなし手番から着手までの時間を持ち時間から引く。

コンピュータ操作者の自己責任の遅刻によって不在のまま対局が開始された場合は、コンピュータの操作は主催者側が代理で行うが、その結果一切の責はコンピュータ操作者が負う。

■ 定めなき事柄に関して

上記のルールに記述のない事柄で、新たに規定を設ける場合は、主催者側と出場者（プロ棋士・コンピュータソフト開発者）が誠意を持って協議して解決にあたることとする。

以上